

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 54 ※記入不要	提案機関名	県央地域農業改良普及センター
要望問題 農総研などにより開発された、イチゴ高設栽培システム（C. P. Cシステム）の給液管理法の解明及び、微量元素欠乏対策		
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 <p>県央地域において、標記の栽培装置が生産者に導入されているが、給液管理や養液管理が明確でないため、根腐れ等による生育不良や溶液中の微量元素（マンガン）が無くなる現象が認められる。根腐れ症状については、地下部温度の確保と給液時間・給液回数および給液時の水深等が関与していると考えられるため、これらについて適正な方法を明らかにする。また、微量元素を含む養液管理についても、明らかにする必要がある。</p>		
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内	
研究対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①研究所対応 <input type="checkbox"/> ②委託研究 <input type="checkbox"/> ③共同研究 <input type="checkbox"/> ④その他	
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業総合研究所（ <input type="checkbox"/> ②根府川試験場 <input type="checkbox"/> ③三浦試験場 <input type="checkbox"/> ④津久井試験場） <input type="checkbox"/> ⑤畜産研究所 <input type="checkbox"/> ⑥水産総合研究所（ <input type="checkbox"/> ⑦内水面試験場 <input type="checkbox"/> ⑧相模湾試験場） <input type="checkbox"/> ⑨自然環境保全センター	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部 署：	生産技術部
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可
試験研究課題名 （①、②、④の場合）	閉鎖循環方式による養液栽培技術の確立
対応の内容等	<p>本方式は毛細管現象により常に培地内水分を一定に保つことを特徴として開発した栽培装置です。この方式は、培地の適応性は広いが、保水性が少ないもみ殻等を使用するときは、腰水かん水方法を併用することが必要です。育苗培地にパーライト等の無機資材を使用した苗を定植すれば根腐れ症状の発生はありませんが、相模粒土のような資材では、発生することもあります。また、装置の何らかの問題によることも想定できるため、これら症状が現地で発生した時は迅速に対応します。</p> <p>現地試験では「章姫」を栽培して、標準を上回る生産性が実証され、これにより普及された技術ですが、導入した生産者は「とちおとめ」、「さちのか」の栽培もしているため、本年度試験で、これら品種の適正な肥培管理を検討しながら問題の解決にあたります。なお、現地で解決出来ることは、生産者がこれまで培ってきた栽培技術と併せ現地で解決して、よりよい技術体系を確立して行きますのでご協力をお願いします。</p>
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
備考	